

大豆の播種遅れに注意！ 対策を実施して減収リスクの軽減を！

本年度は、6月中旬から7月中旬にかけて降雨が続いたことから、大豆の播き遅れや出芽不良による播き直しが発生しています。

播種適期よりも大豆播種が遅れる場合は、以下の点に注意し、減収のリスクを軽減しましょう！



1 播種量を増やす

不足する生育量を栽植密度（株数）で補うために、播種量を1～2割増やしましょう。

また、条間を30～45cmに狭める狭畦密播も株数を確保することができるため、播種が遅れた場合は検討しましょう。

【通常栽培 ※中耕培土を実施するほ場】

品種	播種適期	播種量 (/10a)	
		適期内	適期以降
ことゆたかA1号	6月中旬～7月下旬	4～6 kg	5～7 kg
フクユタカ	7月上中旬	4～6 kg	5～7 kg

※目標栽植密度：15,000本/10a

【狭畦密播栽培】

品種	播種適期	条間	播種量 (/10a)
ことゆたかA1号	7月中下旬	30～45cm	6～10 kg

※目標栽植密度：22,000本/10a

※狭畦密播は徒長しやすくなるため、「フクユタカ」などの徒長しやすい品種では実施しないようにしましょう。

2 播種深を調整する

播種深は3cmを基本としますが、播種後に晴天が続くと予測される場合はやや深く（5～6cm程度）しましょう。

3 施肥で初期生育を確保する

出芽後の初期生育を確保するために、基肥に窒素成分で2～3kg/10aを施用しましょう。

さらに、開花期以降は窒素吸収量が多くなるため、追肥として窒素成分で2～4kg/10aを施用すると、増収が見込めます。

～今後の管理について～

☆排水対策を徹底し湿害を回避しましょう！

- 播種遅れや播き直しの場合でも、排水対策を徹底し、ほ場が乾いた状態で播種を行いましょう。
- 適期に播種ができたほ場でも、降雨等によってほ場に滞水しないよう、うね間や明きよを点検するなど、ほ場管理を徹底しましょう。

☆病害虫防除は適期に実施しましょう！

- 本年度はタバコガ類の注意報が発令されるなど、病害虫の発生量が多くなっています。

⇒適期防除を確実にを行い、被害軽減につとめましょう！



写真 オオタバコガ

農作業中の熱中症に注意しましょう！

気温が高い時間帯の作業は避け、こまめな水分・塩分補給を行いましょう！
作業は2人以上で行う、熱中症対策グッズを活用するなど、対策を講じましょう！